

第7回 わだつみフォーラム

日中戦争 — 文学作品を通して考える
— 火野葦平石川達三『生きている兵隊』を中心に—

お話 作家 彦坂 諦 氏

講師の言葉

あの15年戦争の時代、ふつうの日本人が大量に中国に送りこまれ、ふつうの中国人と接触した。この二つの民族の庶民のあいだで、おたがいの行動のなかのなにがどのように記憶されているのか？ これを手がかりとして、あの戦争という状況をひとりひとりの人間がどのように生きえたのか、生きえなかったのか、ごいっしょに考えたいと思います。

*文学講座ではありませんから必須ではありませんが、『麦と兵隊』は新潮文庫（1953年）、『生きている兵隊』は中公文庫（1999年）で今でも読むことができます。

*日中戦争に関する参考図書

富士正晴『帝国陸軍に於ける学習・序』（六興出版1981）

富士正晴『駄馬横光号』（六興出版1980）

堀田善衛『時間』（新潮文庫1957）

笠原十九司『南京事件論争史（日本人は史実をどう認識してきたか）』

（平凡社新書、2007）

日 時 2011年4月24日（日） 12:00～16:30（開場11:00）
場 所 わだつみのこえ記念館 1階 参加費 無料

プログラム

◆ビデオ上映 12時～13時10分

「戦ふ兵隊」（亀井文夫監督 1939年 東宝 66分）

*上映不許可となった作品。記念館所蔵映像資料）

休憩・昼食 13時10分～55分

◆お話・質疑 14時～16時30分

*講師紹介：

彦坂諦（ひこさか・たい） 1933年生。作家。著書に『シリーズ

〈ある無能兵士の軌跡〉』第1部『人はどのようにして兵となるか』『第3部『ひ

とはどのようにして生きのびるか』など全九巻（柘植書房）、『餓死の研究』

（立風書房）、『男性神話』』（径書房）、『無能だって？ それはどうした?!』

（梨の木舎）、『九条の根っこ』（れんが書房新社）など多数。

共催 日本戦没学生記念会（わだつみ会） わだつみのこえ記念館